

1 実証実験の概要

(1) 概要

- 常滑市では、2017年度から愛知県が自動運転の実証実験をおこなってきました。
- これまでの県の実証実験の成果をもとに、将来の地域への導入を見据えて、地元交通事業者とともに**市が実証実験**を実施しました。

(2) 運行ルート

常滑駅→りんくう常滑駅→ウィンボとこなめ→常滑駅

※ 反時計回りの周回コース

(3) 運行期間

1月16日(火)～2月7日(水)

(4) 運行車両

大型バス(いすゞ自動車・エルガ)

(5) 自動運転レベル

レベル2

※ 運転手が必要に応じて介入

(6) 運行方式

定時定路線(1周25分)



2 実証実験の成果について

(1) 試乗会

- 実証実験最終日(2月7日)に**定時・定路線で6便**を運行しました。
- 自治体、行政機関、交通事業者など**関係者計66名が試乗**しました。

(2) アンケート結果から

- 試乗した人のうち**65名から回答**がありました。
【乗り心地】 5段階評価中 **4段階（概ね満足）以上が43%**。3段階（普通）を含めても72%。
今後、実証を繰り返していく中で、乗り心地につながる部分の調整を重ねていきます。
- 【社会受容性】 5段階評価中 **4段階（概ね満足）以上が71%**。3段階（普通）を含めると93%。
今回は関係者が試乗したため、一般の人よりも高めの結果だった可能性があります。
今後は、一般の人からも高い評価が得られるよう、安全性や乗り心地の向上を目指します。

(3) 課題など

- 片側2車線の道路では追越しされることが多く、追越し車両との距離を見て運転手が介入するケースが多くありました。
- 歩道がある道路で車道の隅を歩いていた人がいたため、念のため運転手が介入した事例もありました。
- 自動運転バスの実装には、自動運転車両に対する歩行者、車側の**配慮や交通マナー向上も必要**です。

3 今後の取組みについて

- 技術面の向上はもちろんですが、実装に向けて、地域のプレイヤーで自動運転バスを運行できるよう、交通事業者や関係者など地域社会の受け入れ態勢を整えていくことが重要です。
- 自動運転バスに限らず公共交通の安全運行のため、住民などへの啓発も繰り返していきます。

技術面・受容性面の双方で、現地で続けていくことが重要
今後も実装を想定した実証実験に取り組んでいきます